

自治体の結びつきと広がり方についての地域特性分析 (鹿児島県の事例)

— 地域施設計画における圏域設定手法に関する研究 その10 —

正会員 ○ 奥 貴人 3)
同 友清 貴和 1)
同 山下 剛 2)

1.はじめに

前稿で圏域形成の広がり方は、市郡単位での結びつきが強い市町村やそうでない市町村など、各市町村や地域によりその特徴があらわれた。これには、施設・サービスの内容やその地域的情勢・特性(市町村成立の歴史・人口・面積・地形など)といった要因が影響していると思われる。

本稿では、この地域特性の中の市町村成立の歴史・人口・面積規模と、最小圏域による類型から得られた市町村や地域の圏域形成の広がりとの関係について考察する。

2.属する市町村の歴史の変遷に関する類型の特徴

一連の本研究の過去の成果より、明治22年の市制町村制施行以前から自治体の区域形態を保ってきた市町村は、圏域形成において自市町村で単独で施設圏域を形成する傾向にあるという結果を得た。この結果をふまえ、今回は圏域形成の広がり方と市町村の歴史の変遷との関係性について見る。

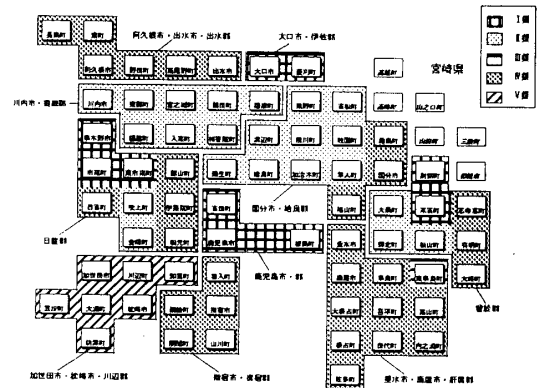
市町村の区域形態の成立時期(現在の区域の同一性を歴史的にいつ頃から維持しているか)、分割・合併の有無(明治17年の郷制時代から現在に至るまでに、自治体レベルでの分割・合併が行われた経緯があるか。鹿児島県において市町村の変遷がうかがえる4つの時期(注)を基準とする。)の2つの分析軸を用いて各類型を比較し特徴を見る。

《歴史の変遷についての考察》 → 【図-1】 【表-1】 【表-2】

I類における市町村の成立時期は、明治17年または明治22年当時に成立した市町村が、全10市町村のうち7割を占める。この値は他の類に比べ高い値である。そのうち明治22年当時から成立した市町村がI類の中で占める割合は4割で、やはり他の類に比べ高い値である。合併・分割の有無においては、分割の経緯が見られる市町村がI類の中で占める割合は4割で、他の類に比べ高い値である。

II類とIV類において明治17年当時の郷区域を維持している市町村の割合が比較的高く、圏域形成での共通する特徴は、少数の市町村による核が形成されないことで

(注1) 明治22年：市制町村制定、昭和31年：市町村合併法後。



【図-1】 鹿児島県全体の類型分布 (I~V類)

【表-1】 最小圏域による類型に属する市町村の区域形態形成時期

| I類 | 市町村成立時期 | 市町村数 | 全市町村に対する割合 | I類における割合 |
|------|---------|------|---------------|---------------|
| I類 | 郷区域 | 3 | 11.1% (3/27) | 30.0% (3/10) |
| | 明治22年 | 4 | 28.6% (4/14) | 40.0% (4/10) |
| | 昭和31年 | 2 | 7.4% (2/27) | 20.0% (2/10) |
| | 現在 | 1 | 3.3% (1/3) | 10.0% (1/10) |
| II類 | 市町村成立時期 | 市町村数 | 全市町村に対する割合 | II類における割合 |
| II類 | 郷区域 | 9 | 33.3% (9/27) | 40.9% (9/22) |
| | 明治22年 | 3 | 21.4% (3/14) | 13.6% (3/22) |
| | 昭和31年 | 8 | 29.6% (8/27) | 36.4% (8/22) |
| | 現在 | 2 | 6.7% (2/3) | 9.1% (2/22) |
| III類 | 市町村成立時期 | 市町村数 | 全市町村に対する割合 | III類における割合 |
| III類 | 明治22年 | 1 | 7.1% (1/14) | 100.0% (1/1) |
| IV類 | 市町村成立時期 | 市町村数 | 全市町村に対する割合 | IV類における割合 |
| IV類 | 郷区域 | 14 | 51.8% (14/27) | 45.2% (14/31) |
| | 明治22年 | 4 | 28.6% (4/14) | 12.9% (4/31) |
| | 昭和31年 | 13 | 48.1% (13/27) | 41.9% (13/31) |
| | 現在 | 0 | 0% | 0% |
| V類 | 市町村成立時期 | 市町村数 | 全市町村に対する割合 | V類における割合 |
| V類 | 郷区域 | 1 | 3.7% (1/27) | 14.3% (1/7) |
| | 明治22年 | 2 | 14.3% (2/14) | 28.6% (2/7) |
| | 昭和31年 | 4 | 14.8% (4/27) | 57.1% (4/7) |

【表-2】 最小圏域による類型に属する市町村の分割・合併の有無

| I類 | 市町村成立形態 | 市町村数 | 全市町村に対する割合 | I類における割合 |
|------|---------|------|---------------|---------------|
| I類 | — | 3 | 11.1% (3/27) | 30.0% (3/10) |
| | 分割 | 4 | 20.0% (4/20) | 40.0% (4/10) |
| | 合併 | 1 | 6.3% (1/16) | 10.0% (1/10) |
| | 分割合併 | 2 | 25.0% (2/8) | 20.0% (2/10) |
| II類 | 市町村成立形態 | 市町村数 | 全市町村に対する割合 | II類における割合 |
| II類 | — | 9 | 33.3% (9/27) | 40.9% (9/22) |
| | 分割 | 2 | 10.0% (2/20) | 9.1% (2/22) |
| | 合併 | 10 | 62.5% (10/16) | 45.5% (10/22) |
| | 分割合併 | 1 | 12.5% (1/8) | 4.5% (1/22) |
| III類 | 市町村成立形態 | 市町村数 | 全市町村に対する割合 | III類における割合 |
| III類 | 分割 | 1 | 5.0% (1/20) | 100.0% (1/1) |
| IV類 | 市町村成立形態 | 市町村数 | 全市町村に対する割合 | IV類における割合 |
| IV類 | — | 14 | 51.8% (14/27) | 45.2% (14/31) |
| | 分割 | 9 | 45.0% (9/20) | 29.0% (9/31) |
| | 合併 | 4 | 25.0% (4/16) | 12.9% (4/31) |
| | 分割合併 | 4 | 50.0% (4/8) | 12.9% (4/31) |
| V類 | 市町村成立形態 | 市町村数 | 全市町村に対する割合 | V類における割合 |
| V類 | — | 1 | 3.7% (1/27) | 14.3% (1/7) |
| | 分割 | 4 | 20.0% (4/20) | 57.1% (2/7) |
| | 合併 | 1 | 6.3% (1/16) | 14.3% (1/7) |
| | 分割合併 | 1 | 12.5% (1/8) | 14.3% (1/7) |

Area characteristic analysis about ties and the way of expanse on local government. (in Kagoshima pref.)
A study on the zoning techniques for facility area. part 10.

Takato Oku, Takakazu Tomokiyo and Gow Yamashita.

ある。長い間郷区域を維持し、しかも単独で施設圏域を構成する傾向にある市町村は、圏域形成における自立性が高いと言えるだろう。自立性が高ければ小さな規模で施設圏域を構成することも減少し、最小圏域の広がりでは少数市町村による核が形成されないのではないかと考えられる。

V類においては市町村の分割の経緯があり昭和31年当時に区域が成立した市町村の割合が高い。圏域形成の特徴としては、実質的に施設圏域を形成する範囲が狭く、特定の市町村と結びついている。V類の全7市町村は川辺市郡で構成しており、そのうち5市町村は明治17年当時の2つの郷から分割したものである。このような過去の結びつきと市郡の枠組みが影響し、圏域形成において市郡を基準とした狭小な範囲で同市郡内(特定)の市町村と結びつくと考えられる。

3. 属する市町村の人口面積規模に関する類型の特徴

施設圏域に必要なのはサービスの充実に最適な規模である。それを決定づける人口・面積の規模は現在の圏域形成に対し多大な影響があるはずである。そこで圏域形成の広がりや人口面積規模の関係を明らかにするために、人口・面積・人口密度の3つの値を用いて類型ごとの特徴を探る。

そこで鹿児島市の人口は53万と特に多く、属する類型全体の特徴に与える影響が大きすぎるため、ここでは鹿児島市を除いて分析する。

1) 3つの値それぞれについて各類型の平均値を求め、比較し類型全体としての特徴を見る。2) 3つの値それぞれについての類型内の最大値と最小値の差により類型内の市町村の人口面積規模のまとめ具合や類似性を見る。また、市は人口・人口密度の値が高く、類型内に与える影響が町村に比べ大きく町村の持つ特徴が見えなくなる可能性があるため、ここでは市を除いて分析する。

《人口面積規模についての考察》 →【表3】【表4】

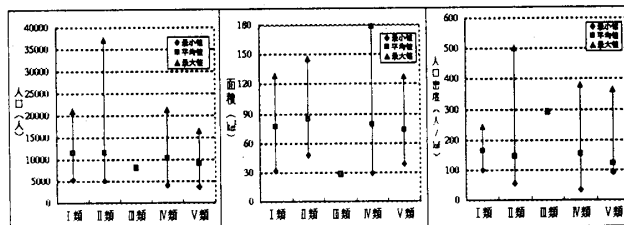
I類の全町村間での人口密度の最大値と最小値との差が比較的小さく、人口密度の規模に類似性があるといえる。I類の市町村は、先述のように市郡間をつなぐ機能を持つといえ、この値は他の市郡の市町村が市郡境界を越えて結びつく町村として都合の良い人口面積規模と考えられる。

II類は比較的人口密度が低く、地理的には山間部に位置する市町村が多い。人口密度の低さに伴う財政の問題から他市町村と多く結びつく必要性が高くなり、様々なパターンを用いて他市町村と結びついていると考えられる。また、地理・地形的問題から簡単に圏域範囲を広げ

【表3】 類型内の人口・面積・人口密度の平均 (鹿児島市を除く)

| | 類型全体 | | | 類型中の町村のみ(市を除く) | | |
|------|-----------|-----------|---------------|----------------|-----------|---------------|
| | 人口 (人) | 面積 (㎡) | 人口密度 (人/㎡) | 人口 (人) | 面積 (㎡) | 人口密度 (人/㎡) |
| I類 | 14,975.7 | 100.8 | 177.5 | 11,385.1 | 76.4 | 163.4 |
| II類 | 14,130.1 | 92.2 | 150.4 | 11,387.1 | 83.9 | 144.7 |
| III類 | 8,119.0 | 27.7 | 293.3 | 8,119.0 | 27.7 | 293.2 |
| IV類 | 16,223.1 | 94.0 | 176.6 | 10,273.3 | 78.1 | 153.3 |
| V類 | 14,126.1 | 76.4 | 179.3 | 9,000.2 | 73.1 | 120.9 |

【表4】 類型内の町村のみでの人口・面積・人口密度の最大値・平均値・最小値(市を除く)



られずに実質範囲がそれほど広域にならないのではないだろうか。

V類は川辺市郡を構成する市町村であり、この類での面積の規模の最大値と最小値の差が小さく、市町村間での類似性が見られる。また市を除く5町村においても人口密度の規模に町村間に類似性が見られた。V類は人口・面積ともに小規模の3町、人口・面積とも標準的規模の2町、人口密度の高い2市の3タイプが同じ市郡に属しており、それらの組合せで施設圏域の規模に対応しているために、圏域形成において市郡を基準とした狭小な範囲で同市郡内(特定)の市町村と結びつくと考えられる。

4. まとめ

各市町村の属する圏域形成の広がり方の各類型について、各市町村の固有の特性である市町村成立の変遷と人口・面積規模との関係性を考察した。

分析では、圏域形成における市町村の広がり方や人口・面積の規模や歴史との間の関係性を見出すことができ、特に各類型により郷区域や市町村同士の分割の経緯、人口密度や人口・面積を軸として市町村間のまとめ方や広がりに関する特徴・類似性を見ることができた。

今後、地形・道路交通状況などといった圏域形成に影響していると思われる他の指標に関しても分析を行い、市町村同士の関係・つながりをより明確にし、地域施設計画における圏域設定手法を導きだす知見とする事が必要である。

1) 鹿児島大学教授・工博
2) 鹿児島大学助手
3) 鹿児島大学大学院

Prof., Dept. of architecture, Faculty of Eng, University of Kagoshima, Dr.Eng.
Research Assoc, Dept. of architecture, Faculty of Eng, University of Kagoshima.
Graduate School, Dept. of architecture, Faculty of Eng, University of Kagoshima.